

私がお寺へのご縁をいただいたのは、18歳の頃におばちゃんのアッシー君を務めたことのように思います。何か様わからんが近所のおばあちゃんといっしょに、お寺参りに出かけ送り迎えをさせられたものでした。家ではお内仏にまいつている姿がおもいだされます。

28歳の時、養泉寺で親鸞聖人700回忌御遠忌法要が勤まりました、松一式ということで松の葉組を手伝うことになり、1週間ぐらい夜お寺に行きました。それ以来報恩講の花立を続けることになりました。7か月の長男の稚児デビューでした。1か月後、「おすぎ」おばあちゃんが旅立ちました。

52歳の時に、蓮如上人500回忌法要が勤まりました。法要委員として本堂屋根、鐘楼屋根、山門、高塀等改修し整えることができ、喜んだことです。

66歳の今年5月3、4日と親鸞聖人750回忌御遠忌法要が勤まり、委員として鼓楼、本堂建具、高廊下、太鼓等の改修等のお手伝いをしました。6才、4才、3才、そして8か月の孫たちの稚児デビューでした。

門徒会には、57歳の時に「先先住」よりお声掛けがありました、[いっしょに酒を飲もまいか]の一言で、「そんな簡単なことならいつでもいいです」が始まりでした。

3期目になってから、別院院議会議員、教区常任委員、教化委員など、身の丈に合わぬ事が来ました。それでも、知らないよりは、知っていた方がよいのかと思いいろいろと学んでいます。

「お寺ってなんだ、仏様ってなんだ、自分ってなんだ、世間ってなんだ、平和ってなんだ、いのちってなんだ、幸せってなんだ、どうして死ぬんだ、・・・ああそうか、生きてきたからか。」命をいただいた、生身の体に命をいただいたこの私に、父、母、じいちゃん、ばあちゃん、いっぱいいる先人、そしてこれからも生まれてくるであろう子や孫たち。終わりが来るまで、新しい私に気が付きたいものです。